

## II 情報交換推進事業

## II 情報交換推進事業

### 1 実施機関及び担当者

高知県水産試験場			
漁業資源課長	田ノ本	明彦	
チーフ	新谷	淑生	
主任研究員	浦	吉徳	
〃	山本	順	
〃	林	芳弘	
〃	大河	俊之	
〃	梶	達也	

### 2 対象海域及び漁業種類

高知県地先沿岸及び沖合域におけるイワシ・アジ・サバ・カツオ等を対象とする漁業

### 3 実施期間

平成21年4月1日～平成22年3月31日

### 4 情報収集

漁協、漁業指導所、漁業情報サービスセンター、漁業無線局（漁船、調査船）、及びその他関係機関から電話、ファックス、郵便、現地調査により情報を収集した。

### 5 広報の方法

新聞、ファックス、郵便、電話により漁業者、漁協、漁業指導所、漁業情報サービスセンター及びその他関係機関に広報した。同時に高知県漁海況ホームページに掲載した。漁海況速報発行状況は表1に示した。

なお、平成21年下半期（8～12月）の漁海況予報、平成22年上半期（1～6月）の漁海況予報は資料1、2のとおり。

また主要魚種、主要漁業種類別漁獲統計、調査地はⅢ主要魚種・主要漁業漁獲統計に示した。

表1 漁海況速報発行状況

発行年月	広報回数	備考
21年 4月	4	8月 平成21年下半期（8～12月）漁海況予報 （資料1）
5月	3	
6月	5	
7月	4	
8月	4	
9月	4	
10月	4	
11月	4	
12月	5	
22年 1月	4	
2月	4	
3月	5	
計	50	

(資料1)

## 高知県長期漁海況予報(要約版)

### 平成21年下半期(8~12月)の漁況・海況の予想

平成21年8月発行 高知県水産試験場

このたび、平成21年8月から12月を予測期間とした「平成21年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

## 海 況

### 【海況の経過 (平成21年1月~6月)】

#### 1. 黒潮

足摺沖では、4月上旬まで2月中旬頃からの「接岸傾向が継続していましたが、4月中旬から「やや離岸」し、その傾向が続いていました。

室戸岬沖では、2月上旬からの「やや離岸」傾向が4月下旬まで継続しました。5月上旬に一時的に「接岸」傾向を示したものの、その後次第に離岸し、6月中旬には「かなり離岸」となりました。その後、接岸傾向に転じています。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は小規模な変動を示しつつ接岸~やや離岸で推移しました。

#### 2. 沿岸水温

概ね「平年並み」で推移しましたが、4月の100m層及び200m層で過去3番目の低水温が記録(1975年以降)されるなど、4~6月の100m以深において低水温が観測されました。

#### 3. 特異現象

##### 海況

・沿岸定線観測において、4月の100m層及び200m層の水温が過去3番目の低水温となりました(1975年以降、欠測年あり)。

##### 漁況

- ・カツオ曳縄漁が著しく不漁
- ・浦ノ内湾内でのアサリ漁が不振
- ・機船船曳網漁に混入するアカクラゲの被害報告が数多く寄せられました。
- ・2月に9キロ級のブリが定置で好漁。来遊時期の遅れが指摘される近年では珍しい寒ブリの好漁となりました。

### 【今後の見通し(平成21年8~12月)】

#### 1. 黒潮

流型：潮岬以東の黒潮は、期間を通してC型基調で推移し、8~9月には一時的に八丈島の北を通る見込みです。

四国沖の黒潮：黒潮は、都井岬沖~足摺岬沖では8~9月及び12月に離岸傾向となる見込みです。また、室戸岬沖~潮岬沖では8~9月は接岸傾向、10月以降は離岸傾向で推移する見込みです。

(根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

## 2. 沿岸の水温

「平年並み」から「高め」で推移する見込みです。

### (根拠)

- ・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」(6月25日発表、予報期間7～9月)によると、期間中の平均気温は「高い」か「平年並み」となっています。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移しています。

## 漁 況

### I サバ類(ゴマサバ及びマサバ)

#### 【漁況経過(平成21年4～6月)】

##### 1 高知県

- (1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は187.5トン(以下、漁獲量は期間中の合計を示します)で、前年比58%、平年比12%(以下、平年とは平成10年から平成19年の10年間の平均値を示します)でした。まき網漁獲物の体長測定結果によると、漁獲の主体はゴマサバで2歳魚主体でした。
- (2)定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は380.0トンで、前年比460%、平年比386%でした。漁獲物の測定並びに県東部室戸地区(高岡)の定置網入網調査等の結果によると、主体はゴマサバがほとんどを占め、2～3歳魚が主体でした。
- (3)釣(立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)による漁獲量は425.0トンで、前年比132%、平年比129%でした。魚体測定の結果、漁獲のほとんどはゴマサバで、前年同様3歳魚(平成18年生まれ)以上が主体でした。

##### 2 周辺各県の経過

宮崎県:日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は、ゴマサバ主体に3,676トンで、前年比163%、平年比76%でした。

愛媛県:豊後水道のまき網では南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は231トンで前年比889%、平年比18%でした。

和歌山県:紀伊水道外域の2そうまき網による4～6月の総漁獲量はゴマサバ主体に485トンで、前年比27%、平年比58%でした。

#### 【漁況予測(平成21年8～12月)】

- (1)漁獲対象:1歳魚(平成20年生まれ)、2歳魚(平成19年生まれ)、3歳魚(平成18年生まれ)
- (2)来遊水準:
  - ・ゴマサバ:1歳魚は少なく、2歳魚は前年並となります。全体としては、前年並と考えられます。
  - ・マサバ:来遊量は1歳魚が減少し、2歳魚が増加します。3歳以上をあわせた全体としては、平年並と考えられますが、依然、低水準で推移する見込みです。

(参考)前年(平成20年)8～12月のサバ類漁獲量

宿毛湾の中型まき網:892トン

定置網(窪津・椎名合計):62トン

釣(立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計):315トン

説明:

ゴマサバ：ゴマサバ太平洋系群の平成 21 年の資源の水準は「高位」、動向は「減少」と評価されています。この資源量は、0 歳魚が多いものの、1 歳魚以上が少なく、全体としては前年に近いと推定されています。また、高知県の漁獲量も釣や定置網を中心に前年以上で推移していることから、期間中のゴマサバ全体としての本県への来遊量は、前年並と考えられます。

マサバ：マサバ太平洋系群の平成 21 年の資源の水準は「低位」、動向は「増加傾向」と評価されています。包括的な太平洋沿岸の資源量調査の結果、平成 21 年は 2 歳魚（平成 19 年生まれ）が主体となり、1、3 歳魚以上の残存資源量は少ないと推定されています。ここでの漁況予測は、このことを中心に、高知県の漁況情報を加味して、作成しました。

## II マアジ

### 【漁況経過（平成 21 年 4～6 月）】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 168 トンで、前年比 57%、平年比 53% でした。銘柄別では、150g 以上の「アジ」が 120.7 トンで、前年比 68%、平年比 92% でした。150g 未満の銘柄「ゼンゴ」は 47.4 トンで、前年比 41%、平年比 25% でした。漁獲物の体長測定結果等によると、1 歳魚以上を主体に漁獲していたと思われれます。
- (2) 定置網（窪津・椎名 2 水揚地合計）による漁獲量は 283.6 トンで、前年比 206%、平年比 124% でした。

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 1～6 月の総漁獲量は 521 トンで、前年比 65%、平年比 39% でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を主体に漁場が形成され、4～6 月の総漁獲量は 632 トンで、前年比 48%、平年比 43% でした。

和歌山県：紀伊水道外域 2 そうまき網による 4～6 月の漁獲量は 653 トンで、前年比 240%、平年比 83% でした。

### 【漁況予測（平成 21 年 8～12 月）】

- (1) 漁獲対象：0 歳魚（平成 21 年生まれ）主体に 1 歳魚（平成 20 年生まれ）以上が混じる。
- (2) 来遊水準：前年並みから下回ると考えられます。

（参考）前年（平成 20 年）8～12 月のマアジ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：544 トン

定置網（窪津・椎名合計）：270 トン

説明：

マアジ太平洋系群の資源水準は「中位」、動向は「減少」と評価されています。予測期間中は、0 歳魚（平成 21 年生まれ）が主な漁獲対象となります。この 0 歳魚は、高知県海域をはじめ、西日本の各地でおおむね低い来遊水準にあると考えられることから、本年下半期の来遊水準は前年並みから下回ると推定されます。

## III マイワシ

### 【漁況経過（平成 21 年 4～6 月）】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 252.9 トンで、前年比 630%、平年比 269% でした。漁獲は 4 月に集中していました。漁獲物の体長測定結果によると、4 月は体長 18cm 台の 1 歳魚（平成 20 年生まれ）を主体に漁獲していたと考えられます。
- (2) 定置網（窪津・椎名 2 水揚地合計）による漁獲量は 2.0 トンで、前年比 126%、平年比 4% でした。

た。漁獲物の体長測定結果によると、主体は0歳魚（平成21年生まれ）でした。

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は244トンで、前年比45%、平年比29%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では南部に若干の漁がみられ、4～6月における総漁獲量は21トンで前年比14%、平年比1%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘の1そうまき網による4～6月の総漁獲量は44.5トンで、前年比1,060%、平年比29%でした。

### 【漁況予測（平成21年8～12月）】

(1) 漁獲対象：0歳魚（平成21年生まれ）主体。

(2) 来遊水準：前年並みから前年を下回ると考えられます。

（参考）前年（平成20年）8～12月のマイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：1,298トン

定置網（窪津・加領郷・椎名合計）：10.4トン

説明：

マイワシ太平洋系群の資源量は依然低水準で推移しています。本県における下半期の主な漁獲対象となる0歳魚（平成21年生まれ）は、高知県海域を含む各地で前年並みから下回る来遊水準にあると考えられています。また、本年の上半期に定置網などで散発的に漁獲された1歳（平成20年生まれ）以上の魚は少なく、来遊するとしても散発的なものと推定されます。以上のことから、予測期間中の来遊水準は前年並みから下回ると考えられます。

## IV カタクチイワシ

### 【漁況経過（平成21年4～6月）】

#### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は935.7トンで、前年比750%、平年比250%でした。銘柄別では幼魚「ドロ」が178.4トンで、前年比372%、平年比148%でした。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は757.3トンで、前年比987%、平年比299%でした。漁獲物の測定結果によると、体長12～13cm台の1歳魚を主体に漁獲していたと考えられます。

(2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲は57.8トンで、前年比106%、平年比136%でした。

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は1,051トンで、前年比107%、平年比29%でした。

愛媛県：豊後水道では南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は2,453トンで前年比300%、平年比309%でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

### 【漁況予測（平成21年8～12月）】

高知県海域では、下半期に主たる漁獲対象になりません。

## V ウルメイワシ

### 【漁況経過（平成21年4～6月）】

#### 1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1,321.7トンで、前年比82%、平年比246%でした。体長測

定から、1歳魚（平成20年生まれ）を主体に漁獲していたと考えられます。

(2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は11.3トンで、前年比39%、平年比41%でした。

(3) 宇佐漁協の多鈎釣漁（土佐湾中央部）による漁獲量は2.3トンで、前年比45%、平年比16%でした。

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は2,830トンで、前年比132%、平年比131%でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、まき網による4～6月の総漁獲量は771トンで、前年比272%、平年比159%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘における1そうまき網は、8～11月の総漁獲量が188トンで、前年比68%、平年比152%でした。

### 【漁況予測（平成21年8～12月）】

(1) 漁獲対象：0才魚（平成21年生まれ）主体。

(2) 来遊水準：前年並から下回ると考えられます。

（参考）前年（平成20年）8～12月のウルメイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：1,409トン

定置網（窪津・椎名合計）：51トン

多鈎釣漁（宇佐漁協）：2トン

説明：

ウルメイワシの資源水準は高水準にあります。一方、今後の主体となる0歳魚（平成21年生まれ）の来遊状況は、近隣県では良好であるものの、高知県海域ではやや下回る傾向があります。以上のことから、高水準にはあるものの前年並みから下回る来遊と考えられます。

## VI シラス

### 【漁況経過（平成21年4～6月）】

#### 1 高知県

機船船曳網（安芸地区4水揚地・春野町・錦浦・田野浦 7水揚地合計）による漁獲量は181.2トンで、前年比115%、平年比105%でした。魚種組成はカタクチイワシが主体にマイワシとウルメイワシが混じりました。

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：1～5月の総漁獲量は602トンで、前年比97%、平年比45%でした。

大分県：佐伯湾における4～6月の漁獲量は13トンで、前年比36%、平年比15%でした。

徳島県：紀伊水道内における4～6月の漁獲量は641トンで、前年比276%でした。

(資料2)

## 高知県長期漁海況予報 (要約版)

### 平成22年上半期(1～6月)の漁況・海況の予想

平成22年1月発行 高知県水産試験場

このたび、平成22年1月から6月を予測期間とした「平成21年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

## 海 況

### 【海況の経過 (平成21年8月～12月)】

#### 1. 黒潮

足摺沖では、8月上旬まで前月中旬頃からの「接岸」傾向が継続していましたが、同月中旬から「やや離岸」し、同月下旬に一時的に「接岸」しました。その後、10月下旬に「かなり離岸」したほかは概ね「接岸」から「やや離岸」傾向が続いています。

室戸岬では、前月に続いて8月も「接岸」傾向でありましたが、9月に入って「やや離岸」から「かなり離岸」となりました。10月中旬からは「接岸」傾向に転じ、11月末より「やや離岸」傾向となっています。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は小規模な変動を示しつつ接岸～やや離岸で推移しました。

#### 2. 沿岸水温

沿岸定線調査による土佐湾沿岸域の水温は、表層で「やや高め」、中層で「平年並み」、下層で「やや低め」でした。8月は200m層において「やや低め」、その他の層で「平年並み」でした。9月は50m層で「著しく高め」であったほか、0m層及び100m層において「やや高め」、200m層は「やや低め」でした。10月は0m層で「やや高め」、50m層及び100m層で「平年並み」、200m層で「かなり低め」でした。11月は0m層で「やや高め」であったほかは「平年並み」でした。

#### 3. 特異現象

### 海況

- 沿岸定線観測において、7月の200m層の水温が過去最低の低水温を記録、また、9月の50m層の水温が過去4番目の高水温を記録した(1975年以降、欠測年あり)。
- 秋季に県東部の田野、安田、羽根の各大型定置で渦を巻くほど潮(下がり潮)が速く、網入れができない等の情報が寄せられた。

### 漁況

- 佐喜浜の大型定置でメジロ8,000本(8月末の1日のみの漁獲)。8月上旬にはブリ銘柄が数百本単位で2日間入網。
- 10月に宿毛の中型まき網でウルメイワシ好漁(平年比754%)
- 11月末に県東部の椎名、三津、高岡の大型定置に傘径40cm程度の大型クラゲが少数ながら入網した。

### 【今後の見通し(平成21年1～6月)】

#### 2. 黒潮



流型：潮岬以東の黒潮は、期間を通してN型流路で推移し、4～5月に一時的にB・C型流路となる見込みです。

四国沖の黒潮：黒潮は、都井岬沖では1月に小蛇行が形成され、5月まで離岸傾向となり、足摺沖～潮岬沖では1～4月は小規模な離接岸を繰り返す見込みです。また、5～6月には都井岬沖の小蛇行の東進に伴い、足摺岬沖～潮岬沖で離岸する見込みです。

### (根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

## 2. 沿岸の水溫

「平年並み」から「高め」で推移する見込みです。

### (根拠)

- ・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」(11月25日発表、予報期間12～2月)によると、期間中の平均気温は「高い」か「平年並み」となっています。
- ・近年、土佐湾の表面水溫は高め傾向で推移しています。

## 漁 況

### I サバ類 (ゴマサバ及びマサバ)

#### 【漁況経過 (平成21年8～11月)】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は837.6トン(以下、漁獲量は期間中の合計を示します)で、前年(871.4トン)を12%下回り、平年(809.6トン以下、平年とは平成10年から平成19年の10年間の平均値を示します)並みでした。まき網漁獲物の体長測定結果によると、魚種はゴマサバで、0歳魚(平成21年生まれ)が主体でした。
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は14.0トンで、前年(53.0トン)、平年(63.1トン)を下回りました。漁獲物の体長測定並びに県東部室戸地区の2漁場(椎名、高岡)の定置網入網調査等の結果によると、主体はゴマサバでした。
- (3) 釣(立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)による漁獲量は321.4トンで、前年(232.9トン)を上回り、平年(466.3トン)を31.1%下回りました。土佐清水を主とする魚体測定の結果は、漁獲の大半はゴマサバで、前年同様3歳魚(平成18年生まれ)以上のものが大半を占めました。

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は、ゴマサバ主体に3,307トンで、前年比48%、平年比137%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では南部海域を中心に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は1,827トンで前年比92%、平年比140%でした。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網による7～11月の総漁獲量はゴマサバ主体に1,759トンで、前年比77%、平年比80%でした。

#### 【漁況予測 (平成22年1～6月)】

(3) 漁獲対象：1歳魚(平成21年生まれ)、2歳魚(平成20年生まれ)、3歳魚(平成19年生まれ)

(2) 来遊水準：

- ・ゴマサバ：1歳魚は前年を上回り、2歳魚は前年を下回ります。3歳魚以上を含めた全体としては、前年並みと考えられます。
- ・マサバ：1歳魚の来遊量は前年を上回り、2歳魚は前年を下回るものの、依然、低水準で推移す

る見込みです。

(参考) 前年(平成21年) 1～6月のサバ類漁獲量  
宿毛湾の中型まき網：775.5トン  
定置網(窪津・椎名合計)：376.0トン  
釣(立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)：845.9トン

説明：

ゴマサバ：ゴマサバ太平洋系群の平成21年の資源の水準は「高位」、動向は「減少」と評価されています。近年の生まれ年ごとの水準は、2、4、5歳魚(平成20、18、17年生まれ)が低く、1、3、6歳(平成21、19、16年生まれ)が高いと考えられています。平成21年8～11月の漁獲は概ね前年並、平年を下回りましたが、1歳魚の本格的な来遊は今後と推定されることから、前年並の漁獲が見込まれると思われま

す。マサバ：マサバ太平洋系群の平成21年の資源の水準は「低位」、動向は「横ばい」と評価されています。全国的な調査の結果から、主に1歳魚の期間中の本県への来遊量は前年を上回るものと考えられますが、マサバ全体としての来遊量は、依然、低水準に推移するものと考えられます。

## II マアジ

### 【漁況経過(平成21年8～11月)】

#### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は247.6トンで、前年(503.0トン)、平年(472.6トン)を下回りました。銘柄別では、150g以上の「アジ」が41.1トンで、前年(52.4トン)、平年(119.0トン)を下回りました。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は206.5トンで、前年(450.7トン)、平年(353.6トン)を下回りました。漁獲物の体長測定結果等によると、7月は1才魚(平成20年生まれ)主体、8月以降は0歳魚(平成21年生まれ)主体に1歳魚(平成20年生まれ)も漁獲していたと考えられます。
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は26.6トンで、前年(265.4トン)、平年(85.7トン)を下回りました。

#### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は349トンで、前年比208%、平年比27%と平成20年に続いて不漁でした。

愛媛県：豊後水道では中・南部海域を主体に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は1,001トンで、前年比63%、平年比68%でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による7～11月の漁獲量は、909.2トンで、前年比155%、平年比65%でした。

### 【漁況予測(平成22年1～6月)】

- (1) 漁獲対象：0歳魚(平成22年生まれ)、1歳魚(平成21年生まれ)主体。
- (2) 来遊水準：宿毛湾、土佐湾以東ともに前年を下回ると考えられます。

(参考) 前年(平成21年) 1～6月のマアジ漁獲量  
宿毛湾の中型まき網：417.6トン  
定置網(窪津・椎名合計)：323.0トン

説明：

宿毛湾、土佐湾ともに、今期の主体となる1歳魚(平成21年生まれ)の来遊水準は低いと考えられます。予測期間の後半には、0歳魚(平成22年生まれ)も漁獲対象になりますが、その水準は現時点では分かりません。周辺各県の漁況が低調であることも考慮すると、前年を下回る来遊に

なると考えられます。

### III マイワシ

#### 【漁況経過（平成21年8～11月）】

##### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は0トンで、前年（1,145.6トン）、平年（582.9トン）を大きく下回りました。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は1.8トンで、前年（10.3トン）、平年（42.5トン）を大きく下回りました。

##### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月における総漁獲量は21トンで、0トンであった前年を上回ったものの平年比9%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では中部に若干の漁がみられ、8～11月における総漁獲量は0.2トンで前年比14%、平年比0%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘の1そうまき網による8～11月の総漁獲量は19.9トンで、前年比130%、平年比12%でした。

#### 【漁況予測（平成22年1～6月）】

- (1) 漁獲対象：1歳魚（平成21年生まれ）主体で、予測期間の後半には0歳魚（平成22年生まれ）も漁獲されます。
- (2) 来遊水準：前年を下回ると考えられます。

（参考）前年（平成21年）1～6月のマイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：446.9トン

定置網（窪津・加領郷・椎名合計）：64.0トン

説明：

マイワシ太平洋系群の資源量は依然低水準で推移しています。本県も含めた西日本各地では、今期の漁獲主体となる1歳魚（平成21年生まれ）の来遊水準がきわめて低く、前年を下回ると考えられます。予測期間の後半には0歳魚（平成22年生まれ）も来遊しますが、その水準は現時点では分かりません。これらのことから、前年を下回る来遊と考えられます。

### IV カタクチイワシ

#### 【漁況経過（平成21年8～11月）】

##### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は165.4トンで、前年（4.5トン）、平年（139.8トン）を上回りました。銘柄別では幼魚「ドロ」が54.2トンで、前年（4.5トン）、平年（19.2トン）を上回りました。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は111.2トンで、前年（0.0トン）を上回り平年（120.6トン）並みでした。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲は9.3トンで、前年（10.1トン）並みで平年（1.4トン）を上回りました。

##### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は3,439トンで、前年比7,025%、平年比1,028%でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を中心に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は1,641トンで前年比490%、平年比207%でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

【漁況予測（平成22年1～6月）】

カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は中位、動向は減少傾向にあると考えられます。高知県海域では、下半期に主要な漁獲対象にならないため、県下の漁況経過から動向を判断することが出来ません。

## V ウルメイワシ

【漁況経過（平成21年8～11月）】

### 1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1,629.4トンで、前年(762.1トン)、平年(407.0トン)を上回りました。漁獲は10月に多く、体長測定から0歳魚(平成21年生まれ)を主体に漁獲していたと考えられます。
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は14.7トンで、前年(40.7トン)、平年(52.2トン)を下回りました。
- (3) 高知県漁協宇佐統括支所の多鈎釣漁(土佐湾中央部)による漁獲量は6.3トンで前年(2.1トン)を上回り、平年(16.4トン)を下回りました。

### 2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は2,957トンで、前年同期比109%、平年比79%でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、まき網による8～11月の総漁獲量は1,920トンで、前年比375%、平年比397%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘における1そうまき網は、8～11月の総漁獲量が33.2トンで、前年比603%、平年比28%でした。

【漁況予測（平成22年1～6月）】

- (1) 漁獲対象：1歳魚(平成21年生まれ)主体に、期の後半には0歳魚(平成22年生まれ)も漁獲されます。
- (4) 来遊水準：前年並から上回ると考えられます。

(参考) 前年(平成21年)1～6月のウルメイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：1,586.8トン

定置網(窪津・椎名合計)：15.4トン

多鈎釣漁(宇佐漁協)：53.9トン

説明：

ウルメイワシの資源水準の指標となる産卵量は、土佐湾を中心として高水準にあり、資源状態は良いと判断できます。近隣県も含めた平成21年下半期の漁況経過から、今期の主体となる1歳魚(平成21年生まれ)の来遊状況は良いと考えられます。これらのことから、好漁であった前年並みから前年を上回る来遊と考えられます。

## VI シラス

【漁況経過（平成21年8～11月）】

### 1 高知県

機船船曳網(安芸地区4水揚地・春野町・錦浦・田野浦 7水揚地合計)による漁獲量は130.8トンで、前年(49.7トン)を上回り、平年(126.9トン)並みでした。魚種組成はカタクチイワシが主体でした。

## 2 周辺各県の経過

宮崎県：8～11月の総漁獲量は388トンで、前年比28%、平年比37%でした。

大分県：佐伯湾における8～11月の漁獲量は14トンで、前年比23%、平年比11%でした。

徳島県：紀伊水道内における8～11月の漁獲量は407トンで、前年比63%でした。

### 【漁況予測（平成22年1～6月）】

シラス漁況は不確実性が高く、特に3月以降の漁況を現時点で判断することは難しいことから、予測が困難です。